

細菌性肺炎・誤嚥性肺炎



松阪市マスコットキャラクター
「ちゅちゅも」

作成：医事課

<病気について>

肺炎とは、さまざまな病原菌の感染によって肺に炎症が起こった状態のことです。一般的には、体力が落ちているときや高齢になって免疫力が弱くなってくると、かかりやすくなると言われています。

肺炎の原因となる細菌やウイルスは、呼吸をするときに鼻や口から身体の中に侵入します。風邪などをひいてのどに炎症が起こっていると、病原菌が素通りして肺に入ってしまう炎症をおこしてしまいます。ただし、風邪にかかった全ての人肺炎になるのではなく、肺に侵入してしまった細菌の感染力が人の免疫力を上回った場合にだけ発症します。

誤嚥性肺炎とは、嚥下障害などで口の中の細菌で汚れた唾液や食物を誤って飲み込んでしまうことにより、気管へ吸引してしまい発症します。

<症状>

どちらの肺炎も主な症状はせき、発熱、悪寒、胸痛、喀痰、呼吸困難などで、これらの症状は数日間続きます。しかし、高齢者では食欲不振や元気がないなどの症状のみが前面に出る場合があるので注意が必要です。



<検査>

はいえん しんだん かんじゃ じかくしょけん もんしん
肺炎の診断はまず、患者さんの自覚所見の問診から行います。

うたが ばあい きょうぶえっくすせんけんさ どうじ
肺炎を疑った場合は、胸部 X 線検査を行います。それと同時に、

けつえきけんさ じっし けんさけっか そうごう
血液検査も実施しこれらの検査結果を総合して肺炎と診断します。

<治療>

いっばんてき ちりょう くすり
一般的な肺炎の治療は薬で行います。

こうきんやく げんいん すいてい
肺炎に使われる抗菌薬は、原因と推定される

びょうげんきん
病原菌にあわせて使い分けますが、これらの

やくざい ないふく てんてき びょうげんたい はんしよく
薬剤を内服や点滴することで、病原体の繁殖を

おさ
抑えて治療します。



<入院費～概算～>

細菌性肺炎（20 日間）	1 割・2 割負担の場合	44,400 円(上限)
	3 割負担の場合	240,000 円 前後
誤嚥性肺炎（30 日間）	1 割・2 割負担の場合	44,400 円(上限)
	3 割負担の場合	300,000 円 前後

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<平成 28 年度当院データ>

細菌性肺炎	・年間症例数	267 件
	・平均入院日数	19.5 日
誤嚥性肺炎	・年間症例数	204 件
	・平均入院日数	31.7 日

※ パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、
医事課までお気軽にお尋ね下さい。